

平成 26 年度 五泉市生活科部 活動報告

部長 江川 文子

1 研究主題

- ・ 子どもの思いや願いを生かすための教材研究をする。
- ・ 授業研究をとおして、指導力の向上を図る。

2 研究の概要

- (1) 教材研修 「サツマイモを使った簡単な料理」 6月
- (2) 実技研修 「動くおもちゃ作り」 9月
- (3) 授業研究 単元名「あそびにいこうよ③」 10月

3 研究の実際

(1) 教材研修

昨年度に引き続き、瀬倉みゆき先生（五泉市達人バンク）を講師に迎え、低学年の子どもでも作れる「サツマイモの茶巾しぼり」を教えていただいた。さつまいもの茶巾しぼりは生活科の活動の中で作ったことがあるという部員が多くいたが、作った茶巾しぼりにレーズンで顔を付けるというひと工夫が、子ども達の意欲につながると感じた。教師が教えるだけでなく、子どもが考え楽しめる料理のアイデアを教えていただいた。

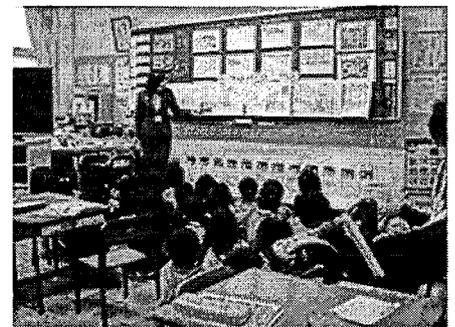


(2) 実技研修

講師に小熊進二先生（五泉市理科センター）を迎え、教科書に例示されている動くおもちゃを製作した。「工夫の余地があるか」「関わりをはぐくむか」という視点で教材を選ぶことや、壊れやすいおもちゃの接着方法を実際に教えていただいたりした。特に、ホットボンドの活用が大変有効であることがわかり、今後の活動に取り入れたいという声がたくさん聞かれた。

(3) 授業研究

清野美紀子教諭（五泉小学校）による、公開授業研究を行った。年間をとおして公園へ行き四季の変化を感じさせる単元である。授業者は、四季の変化をとらえさせるために2つの手だてを考えていた。1つ目は、写真などを用いて、春と夏の公園での経験を想起させ、秋の公園を予想させること、2つ目は、秋探しビンゴを作り、秋探しの活動へ意欲を高めることである。マップやファイル、写真、ビデオなど想起させるための材料がたくさんあり、子ども達は春と



夏の違いを意欲的に見つけ、一人一人が秋の様子を想像しビンゴに書き込む姿が見られた。季節を五感で感じながら校外学習をするための事前指導の在り方を提案していただき、協議会でも目的をもって公園に行くことが大切で、五感を使い感じることでできる「秋探しビンゴ」は有効であるという意見が出された。

4 成果と課題

「子どもの思いや願いを生かすための教材研究」について、講師の先生から子どもの活動に直結した教材を紹介していただき実技研修ができたことで、大変実りのある研修となった。また、授業研究では、季節を五感で感じながら校外学習をするための、事前指導の在り方を提案していただいた。春・夏を比べることで、秋を見つけないという子どもの願いをどんどん引き出せるということが分かった。また、自然を感じられる場所が少なくなっていることから、どんぐりが豊富にある公園などの情報交換もでき、有意義であった。

今後も、教材開発と指導法の改善の両面から研修を進め、指導力の向上を図りたい。